



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社スパンクリートコーポレーション
コード番号 5277 URL <http://www.spancretecorp.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯牟礼 聡
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 菊池 透

TEL 03-5689-6311

四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	1,798	15.5	△170	—	△156	—	△1,395	—
27年3月期第3四半期	1,556	△34.6	△246	—	△235	—	△20	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	△181.05	—
27年3月期第3四半期	△2.61	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	8,094	6,296	77.8	816.89
27年3月期	10,248	7,721	75.3	1,001.67

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 6,296百万円 27年3月期 7,721百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

・平成28年3月期の配当予想につきましては、今後の経営環境の推移を見極めた上でお知らせいたします。

3. 平成28年 3月期の業績予想(平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,167	3.1	△255	—	△243	—	△1,532	—	△198.74

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

・業績予想につきましては、本日(平成28年2月12日)公表いたしました「固定資産の減損損失(特別損失)の計上及び業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	9,320,400 株	27年3月期	9,320,400 株
28年3月期3Q	1,611,898 株	27年3月期	1,611,898 株
28年3月期3Q	7,708,502 株	27年3月期3Q	7,708,502 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

- 平成28年3月期の業績予想を公表していませんでしたが、最近の事業環境と業績の動向等を踏まえ、「固定資産の減損損失(特別損失)の計上及び業績予想に関するお知らせ」を平成28年2月12日に公表しておりますので、ご参照ください。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国の経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善等から回復基調で推移しているものの、円安に伴う輸入品価格の上昇等の影響により、その回復は緩やかなものとなりました。海外におきましては、米国景気は回復継続のなか、中国や新興国での成長鈍化による影響、中東及び東欧における地政学的リスクの高まり等による世界経済の減速懸念があり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

この間、建設業界におきましては、公共投資が弱い動きとなり緩やかに減少する中、人手不足に起因する労務単価の高騰や資材価格の高止まりの影響も重なり厳しい経営環境が続いております。

このような状況下で当社の当第3四半期累計期間の業績は、売上が第2四半期まで好調に推移したことにより、売上高17億9千8百万円(前年同四半期比15.5%増)と増収になりました。その結果、営業損失1億7千万円(前年同四半期は2億4千6百万円の営業損失)、経常損失1億5千6百万円(前年同四半期は2億3千5百万円の経常損失)と赤字幅が前年同四半期より減少いたしました。

事業別にみると、主力のスパンクリート事業は、売上数量が前年同四半期比10.1%増加し、売上高は15億9千8百万円(前年同四半期比17.9%増)と増収となりました。利益面に関しましては、営業損失2億3千1百万円(前年同四半期は3億2千9百万円の営業損失)となりました。

他方不動産事業は、オフィスビル4棟の賃料収入が安定収益源となっておりますが、売上高1億9千9百万円(前年同四半期比0.6%減)、営業利益6千4百万円(前年同四半期比27.0%減)となっております。

四半期純損益につきましては、当第3四半期累計期間の業績及び今後の事業環境の変化を勘案したところ、スパンクリート事業については前事業年度及び当事業年度と2期連続の営業損失が見込まれることになったため、今後の事業計画を見直した結果、当第3四半期会計期間末においてスパンクリート事業及び共用資産に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することが適切であると判断し、減損損失として16億5百万円を特別損失に計上いたしました。このことにより、法人税の税効果等を含め13億9千5百万円の四半期純損失(前年同四半期は2千万円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ21億5千4百万円減少し80億9千4百万円となりました。

流動資産は、6億2千9百万円減少しておりますが、これは主として、現金及び預金が4億6千9百万円減少、売上債権が8千2百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、15億2千5百万円減少しておりますが、これは主として、有形固定資産が14億3千8百万円減少、無形固定資産が9千5百万円減少したこと等によるものであります。

流動負債は、3億4千6百万円減少しておりますが、これは主として、短期借入金が2億9千万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、3億8千3百万円減少しておりますが、これは主として、再評価に係る繰延税金負債が3億3千5百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、四半期純損失13億9千5百万円の計上等により14億2千4百万円減少し、62億9千6百万円となり、この結果、自己資本比率は77.8%(前事業年度末75.3%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、現在まで公表を差し控えさせていただいておりましたが、本日(平成28年2月12日)公表いたしました「固定資産の減損損失(特別損失)の計上及び業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,557,714	2,088,120
受取手形	428,726	—
売掛金	121,767	448,909
完成工事未収入金	183	19,298
有価証券	285,091	285,000
商品及び製品	96,842	72,807
仕掛品	2,259	1,692
未成工事支出金	22,170	6,285
原材料及び貯蔵品	53,809	54,425
その他	71,077	34,034
流動資産合計	3,639,642	3,010,573
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,364,537	1,150,714
機械及び装置(純額)	109,215	52,566
土地	4,107,941	3,052,641
その他(純額)	112,970	471
有形固定資産合計	5,694,663	4,256,395
無形固定資産	95,595	34
投資その他の資産		
投資有価証券	765,669	779,378
その他	52,735	47,836
投資その他の資産合計	818,405	827,214
固定資産合計	6,608,664	5,083,644
資産合計	10,248,306	8,094,218
負債の部		
流動負債		
買掛金	44,190	19,700
工事未払金	40,452	35,831
短期借入金	890,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	101,700	101,700
未払法人税等	—	11,834
賞与引当金	29,900	15,415
工事損失引当金	—	3,985
その他	166,689	137,964
流動負債合計	1,272,932	926,431
固定負債		
長期借入金	355,925	288,125
再評価に係る繰延税金負債	551,377	216,285
その他	346,661	366,393
固定負債合計	1,253,963	870,804
負債合計	2,526,896	1,797,235

(株)パンクリートコーポレーション(5277) 平成28年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,295,900	3,295,900
資本剰余金	3,696,670	3,696,670
利益剰余金	150,407	△599,248
自己株式	△370,588	△370,588
株主資本合計	6,772,389	6,022,733
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	268,379	278,084
土地再評価差額金	680,641	△3,835
評価・換算差額等合計	949,020	274,248
純資産合計	7,721,410	6,296,982
負債純資産合計	10,248,306	8,094,218

(株)スパンクリートコーポレーション(5277) 平成28年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

(2) 四半期損益計算書

(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
売上高	1,556,928	1,798,421
売上原価	1,385,696	1,560,771
売上総利益	171,231	237,650
販売費及び一般管理費	418,096	408,200
営業損失(△)	△246,865	△170,550
営業外収益		
受取利息	6,309	6,232
受取配当金	5,702	5,671
仕入割引	3,538	3,634
その他	4,831	6,461
営業外収益合計	20,382	22,000
営業外費用		
支払利息	3,972	4,662
休止固定資産減価償却費	2,115	1,905
休止固定資産諸経費	3,201	1,203
その他	149	47
営業外費用合計	9,439	7,819
経常損失(△)	△235,922	△156,369
特別利益		
固定資産売却益	243,446	38,331
投資有価証券売却益	8,082	—
特別利益合計	251,528	38,331
特別損失		
減損損失	—	1,605,607
固定資産除却損	13	—
完成工事臨時補修費用	12,000	—
固定資産処分損	—	196
特別損失合計	12,013	1,605,803
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	3,593	△1,723,842
法人税等	23,711	△328,252
四半期純損失(△)	△20,117	△1,395,590

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額 (注) 2
	スパンクリート 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,356,077	200,850	1,556,928	-	1,556,928
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,356,077	200,850	1,556,928	-	1,556,928
セグメント利益又は損失 (△)	△329,958	88,659	△241,298	△5,566	△246,865

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,566千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,566千円であり、その主なものは管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額 (注) 2
	スパンクリート 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,598,706	199,714	1,798,421	-	1,798,421
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,598,706	199,714	1,798,421	-	1,798,421
セグメント利益又は損失 (△)	△231,216	64,689	△166,526	△4,024	△170,550

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,024千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,024千円であり、その主なものは管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「スパンクリート事業」セグメントにおいて、当第3四半期累計期間の業績及び今後の事業環境の変化を勘案したところ、スパンクリート事業については前事業年度及び当事業年度と2期連続の営業損失が見込まれることになったため、今後の事業計画を見直した結果、当第3四半期会計期間末においてスパンクリート事業及び共用資産に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することが適切であると判断し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、スパンクリート事業において1,571,997千円であります。